

小野 あずさ

工夫と便利なツール

今まで、イギリスのいろいろな劇場でお仕事させていただき、それぞれの劇場にはそれぞれの工夫がされているのを、目にしてきました。大きな劇場では大量の機材をいかに効率的にメンテナンスするか。小さな劇場では収納スペースをできる限り有効に使うために、ありとあらゆる空きスペースにフックや車輪付きの棚を作ったり、リサイクルできる色を見やすく収納する郵便局並みの棚を作ったり、工夫はさまざまです。このような工夫はどこの劇場でもしていると思いますが、新しい機材やツールも積極的に取り入れられているようです。

日本にはもう普及しているかもしれませんが、先日、ロンドンのバービカン劇場に取り入れられた新しいサスバトンは、ケーブルをテープなしで這わせられるフックがサスバトン自体についていました(写真左)。デザインも木の枝のようで、少し可愛げがありました。これは吊り込み、バラシ、トラブルシューティングも早くできて、とても便利でした。

リバーサイドスタジオでは、ほぼすべてのサスバトンが、カーテンのようにバトンごと舞台奥から手前(前後)に5m以上移動できるレール式サスバトンが使われていました。吊り点はたしか3点なので、重量制限は他の劇場に比べたら高いですが、「すべてのサスバトンを2m手前に移動して!」という、普段は無理そうなデザイナーの要望もすんなり聞いてくれる劇場なのです。

ツアーカンパニーがよく来る劇場は、いつでも劇場のデフォルト吊り込みにすぐに戻せるように、わざわざサスバトンに、デフォルトの吊り込み灯体の位置を印づけていたり、パッチパネルやマルチケーブルソケットにも1つずつ、どの灯体がどこに刺さるかが記されている、まめな劇場もあります。

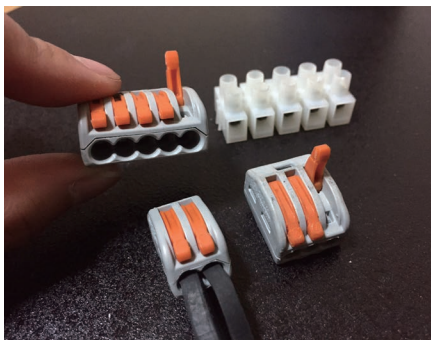
劇場の設備や機材だけでなく、照明卓の使い方も、劇場によって工夫が違います。ウエストエンド以外のほとんどの劇場は、照明卓を所有しているので、劇場のテクニシャンが彼らの空間をよく理解したうえで、彼らの使い勝手の良いように、デフォルト設定をしています。たとえば、卓の電源を切るとムービングのランプも自動で落としてくれるマクロ。ムービングはないが、スクローラーがある劇場では、古い卓(特に自動マークキューができない卓)の場合は、スクローラー以外のチャンネルがインヒビットできるサブマスターを作っておいて、ブラックアウトのキューとマークキューを簡単に作れる工夫をしている劇場もありました。

それ以外に見つけた便利なツールは、LEDなどのワイヤリングで使えるドイツ製ワゴーです(写真中央)。これも、すでに日本に出回っているかもしれませんが。チョップブロックの代わりに使える優れもので、ドライバーで締める必要がなく、爪でオレンジの部分を開けてワイヤー線を穴から奥まで入れ、オレンジの部分をまたパチンと戻してあげれば、2～5たこ足のワイヤー線が完成です。見た目はチョップブロックほど奇麗ではないですが、時間はかなり短縮できます。

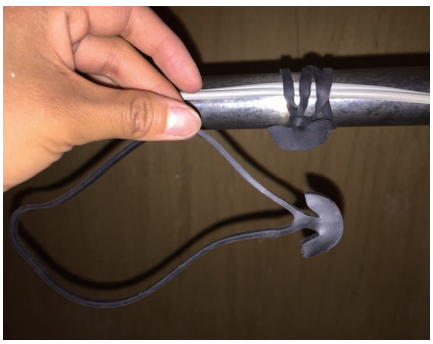
このほかに、ヨーロッパのツアー中に、オランダで見つけたとても便利なツールは、ウィリアムヤンチェス(写真右)という、タイヤの素材から作られた、ヘアーバンドのようなケーブルタイです。インシュロックのようにケーブルをバトンに固定できますが、インシュロックほどガチガチしていないので、ちょっとしたケーブルの長さの調整がしやすく、何回でも取り外し可能で、重たいマルチケーブルも2、3重巻きにすれば、結構しっかり固定されます。これをオランダから何パックか買って、ロンドンの私がよくお世話になっているラーバン劇場にプレゼントをしたことがあります。それ以来、ラーバン劇場ではビニールテープが使用禁止になり、今ではヤンチェスのみで、すべてのケーブリングがされています。少しはエコに貢献できたかしら。おそらく日本の劇場には、これ以上に沢山の工夫と便利なツールが飛び交っていることと思います。今度是非、どなたか教えてください!



新しいサスバトン



ドイツ製ワゴー



ウィリアムヤンチェス